

## 学位請求論文の内容の要旨

論文提出者氏名	循環病態科学 胸部心臓血管外科学 川村知紀
<p>(論文題目)</p> <p>Outcomes of total arch repair using frozen elephant trunk for type 1 aortic dissection: retrospective study (急性大動脈解離 DeBakey1型症例に対するフローゼンエレファントトランク法を用いた全弓部置換術の治療成績:後方視的検討)</p>	
<p>(内容の要旨)</p> <p>本研究の目的は急性大動脈解離 DeBakey1型症例に対するフローゼンエレファントトランク法を用いた全弓部置換術の有効性を検討する目的で行われた。筑波メディカルセンター、弘前大学附属病院で1989年～2016年までの27年間に行われた117例の手術症例を後方視的に検討した。従来 of 全弓部置換術症例(TAR)が75例、フローゼンエレファントトランク法を用いた全弓部置換術症例(FET)が42例であり、2群に分けて検討した。TAR 群、FET 群に永続的脳障害発症率(5.3% vs. 9.5%)、一時的脳障害発症率(4.0% vs 2.4%)に有意差は見られなかった。30日死亡率は6.7% vs. 0% (P=0.158)、病院内死亡率は10.7% vs. 0% (P=0.049)であった。遠隔成績ではFET群の方が生存率が良好であった(Log rank P=0.034)。院内死亡に関わる危険因子は年齢(P=0.046)、術前からの維持透析症例(P=0.003)、頸動脈の還流障害(P=0.032)、縦隔炎の発症(P=0.017)であった。</p> <p>急性大動脈解離 DeBakey1型症例に対するフローゼンエレファントトランク法を用いた全弓部置換術は生存率の向上に寄与することが証明された。</p>	